

広瀬 光一 議員

地域促進バス事業は、地区の定住人口の増加に寄与しており、児童の安全輸送の役割をも担っていることから、今後定期的に懇談会を実施し、事業費の軽

都市建設部長

きぬの里地域促進バスの今後について尋ねる。

議員

常総市立学校適正配置審議会において、中学校の再編が必要という協議結果になっていないことから、中学校におけるスクールバスの導入は想定していない。今後、学校の適正配置の検討をしていく中で将来的なあり方を議論していく。

教育部長

中学生になると、通学距離も長く、下校時間も遅くなり心配する保護者も多い。今後、生徒数の減少が見込まれ、学校の統廃合も検討が必要だ。中学校においてスクールバスを導入する考えはあるか。



スクールバス導入と
きぬの里地域促進バスについて

答弁 課題を共有し、全体的に検討する

減など財政課題の共有も図りつつ、バス事業のあり方について利用者と話し合いながら地域促進バス事業を継続していく。

議員

市長の考えを尋ねる。

市長

利用者の方々との懇談をして課題を共有し、これからのきぬの里地域の10年後、20年後のあるべき姿について、広く意見を聞きながら考えていきたい。その上で促進バスをどのように継続していくのか、または少しずつ縮小していくのか課題を共有することが重要なため、懇談会を開催している。

常総市内全体の小学校中学校の適正配置についても内部で検討がはじまった。それと合わせて全体的に検討していきたい。



吉原 晴照 議員

次に、道の駅の指定管理者の

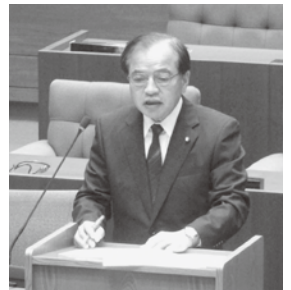
アグリサイエンスバレーの面積45haの中で、企業立地ゾーンは19haであり全体の42%を占めている。注目の道の駅は45%である。企業誘致の効果は、建物設備による固定資産税等の増、さらに人口増も見込まれる。企業誘致には市長がトップセールスマンとして積極的に取り組むことを提案する。

議員

造成工事については、エリア北側から南側へ順次行っている。また、企業誘致の進捗は、来年7月にエリア北の一部ブロックの引渡しが可能となり、企業からの引き合いが多数あると土地区画整理組合から報告を受けている。

副市長

アグリサイエンスバレー構想のエリア内の企業立地ゾーンの造成及び企業誘致の進捗状況は計画どおりか伺う。



アグリサイエンスバレー構想の
エリア別の進捗状況について

答弁 計画に基づいて進捗管理する

選定方法を伺いたい。

副市長

指定管理予定者としては公募型のプロポーザルを予定している。令和4年度中に道の駅設置管理条例を制定後、指定管理者の指定を議会に諮り決定する予定である。

議員

公募者の選択は、帝国データバンク等による財務評価が重要であるため注意して進めていきたい。

市長

民間で行う43haと市で行う道の駅2haを連携することにより、雇用促進、市内の農産物や商店の販売、それに周遊に活かす仕組みで市が発展できるようにしていきたい。

議員

活性化のために、プロジェクトチームだけでなく、横串を通して、市役所全部門が一丸となつて取組んでいただきたい。